



特集：挑戦

WVのレース・スポーツ活動

Race Activities for Yamaha Water Vehicles

深町 達也

Abstract

Two decades ago in 1986, the Yamaha Water Vehicle (WV) "WaveRunner 500" was introduced as the first sit-down type personal watercraft in the world and it became a tremendous hit due to its exhilarating ride seldom experienced in everyday life as well as its ease of use and the assurance it provided as a vehicle. The Water Vehicle, which has a combination of Yamaha's own small engine technology and hull design technology has realized the harmony with user needs, society and the environment, with its technological innovations. The "FX" model, which was introduced as the world's first production PWC model powered by a 4-stroke engine, has now won a strong following as the vehicle that offers families outstanding holiday enjoyment, especially in the U.S., which is the main PWC market.

The Water Vehicle is a very sporty vehicle that rides like a motorcycle on the water and lets the rider experience outstanding mobility and speed. It is natural that the rider of a Water Vehicle desires increasingly exhilarating riding and handsome performance, and as the industry grows a variety of new ways to enjoy marine sports using WV have emerged. These include racing and the thrill of victory that it provides, as well as participation type sports. In this report I introduce some examples of sport activities being promoted with Yamaha Water Vehicles.

1 はじめに

20年前、1986年に発表された、世界初のシットダウンタイプのWater Vehicle(以下、WV)「WaveRunner 500」は、日常では味わえない爽快感や楽しさを提供すると同時に、多くの人々が気楽に楽しめる乗り物として、爆発的な大ヒットとなった。ヤマハ発動機(以下、当社)固有の小型エンジン技術と艇体技術が融合したWVは、その後、ユーザーニーズ、また地域社会や自然環境との融和を、様々な技術革新で具現化してきた。2002年に業界初の4ストロークエンジンを搭載したモデル「FX」は、主要市場の米国を中心にファミリーの余暇を彩るツールとして活躍している。

一方でWVは水上のモーターサイクルともいえるべき機動力とスピード感を味わえるスポーツ性の高い乗り物である。WVを操縦する多くの人々が、より爽快に、より華麗に乗りこなしたいと思うのは自然であり、業界の発展と共にWVを用いたスポーツも様々な形態で楽しまれている。それは、勝利の欲求を満足させるレースの形をとったり、また参加型のスポーツであったりする。本稿では、WVにまつわるスポーツ活動を、いくつかのトピックによりご紹介する。

2 WVのバリエーションとスポーツ性

WVは、1人乗りのスタンドアップタイプと、2、3人が腰掛けるシットダウン(ランナバウト)タイプに大別される。すべてのモデルでスポーツライディングを楽しむことができるが、特に競技では「SuperJet」(図1)などのスタンドアップモデルや、「GP1300R」(図2)などの比較的小型で機動力に富む2人乗ランナバウトモデルが好んで使われている。

小型の艇体に可倒式のハンドルポールを取り付けたSuperJetは特にスポーツ性が高く、バランス感覚や体力を要するモデルだが、訓練次第で華麗に乗りこなすことのできる奥の深さがライダーを惹きつける。

GP1300Rはアグレッシブな形態のボディに、2ストローク3気筒1,297ccエンジンを搭載したラインナップ中最速のモデルであり、米国・欧州の環境規制に対応するための電子制御のフューエルインジェクションや排気系への触媒を装備している。

WVの競技は、モデルカテゴリーや改造の程度に応じて細かく分類されており、比較的自由な改造が認められているクラスでは、市販モデルの倍近い250馬力以上のエンジン出力を発揮する場合もある。このようなマシンを自由に駆ることができるのは、限られたトップレーサーの特権である。



図1 SuperJet



図2 GP1300R

3 欧州の市場性とレース活動

モータースポーツの文化が根付く欧州では、WVレースが盛んに行われており、特に欧州選手権は華やかなレースイベントとして注目されている。各国のプロライダーも参加し、欧州各国を転戦する。毎年9月の最終戦はパリのディズニーランドで行われ、家族連れなど一般の人々も楽しめるイベントとして定着している。スタンドアップカテゴリーではジュニアクラスも設定され、少年たちが瞳を輝かせてスターティンググリッドにつく姿も注目される。欧州には、WVレースが健全なスポーツとして次世代に引き継がれていく土壤があると感じる。



図3 SuperJetで欧州ツアーを転戦中のニコラス・リウス選手

欧州ツアーにおける当社の存在感も大きい。特に当社の海外現地法人YMENUが2004年からサポートするニコラス・リウス選手(図3)の活躍は特筆すべきであり、その鬼神のようなライディングで勝利をつかむ姿に魅了されるファンは多い。欧州でのレース活動のマーケティング効果は大きいと考えられており、ニコラス・リウス＝ヤマハのイメージの浸透が、当社の50%近いマーケットシェアにも貢献している。

4 フランス・オレロン島の耐久レース

前述の欧州選手権は、国際レース組織IJSBA(International Jet Sports Boating Association)のレギュレーションに従うクローズドコースレースであり、ブイで作られる直線とスラロームの複合コースを周回する。

一方モーターサイクルというエンデューロレースもある。毎年初夏にフランスの大西洋岸に位置するオレロン島で開催されるオフショアレース(図4)は、1周100kmのコースを周回する苛酷なものである。マシンのスピード、耐久性、様々な海面状況での操縦性、燃費、そしてライダーのテクニックや判断力、強靱な体力など、どれひとつ欠けても勝利のチャンスはない。2000年、ヤマハチームが当時の最新鋭モデルGP1200Rで表彰台を独占したのは記憶に新しい。チャンピオンのジョエル選手が大海原の波の上を時速100km/h 超で疾走する姿に、WVの潜在能力を垣間見る。100台をはるかに超えるマシンが一斉に沖の灯台に向けてスタートする様子も圧巻である。

オレロン島のレースは島の風物詩ともいえ、ひなびた村がこの時期だけは大いに賑わう。一部のマニア層だけでなく大勢の老若男女が観戦に集まる様子には、この地のレース文化の懐の深さが見える。当社現地法人のYAMAHA MOTOR FRANCEは、このイベントをブランド発揚の場として活用し、成功を収めてきた。



図4 オレロン・オフショア・レース スタート前後

5 参加型のスポーツ S-1 Worldwide

WVレースは様々な国・地域において様々な形で開催されている。JJSF(日本ジェットスポーツ連盟)が主催する日本選手権の競技レベルは世界でも評価が高い。タイのキングス・カップはアジア最大のイベントである。また、体育館の中の特設水槽で競う欧州のインドアレースなど枚挙にいとまがない。

最後に当社が主催するスポーツイベントを紹介する。

S-1 Worldwideは、ブイを並べたスラロームコースを1人で往復するタイムトライアル(図5)である。一握りのレーサーではなく、一般のライダーが気軽に安心して参加できるこのイベントは、先鋭的なレースの世界とは一線を画す。多くのWVユーザーが走りの奥の深さを発見し、より製品に親しんでもらうための普及活動の一環である。

この企画には特別な仕掛けがある。イベントには必ず一定のコースをレイアウトするための国際規格のキット(図6)を用いることで、世界のどこでイベントを開催しても使用されるコース形状は同一になる。



図5 S-1 Time Trial実施風景
(オーストラリア・ゴールドコースト)

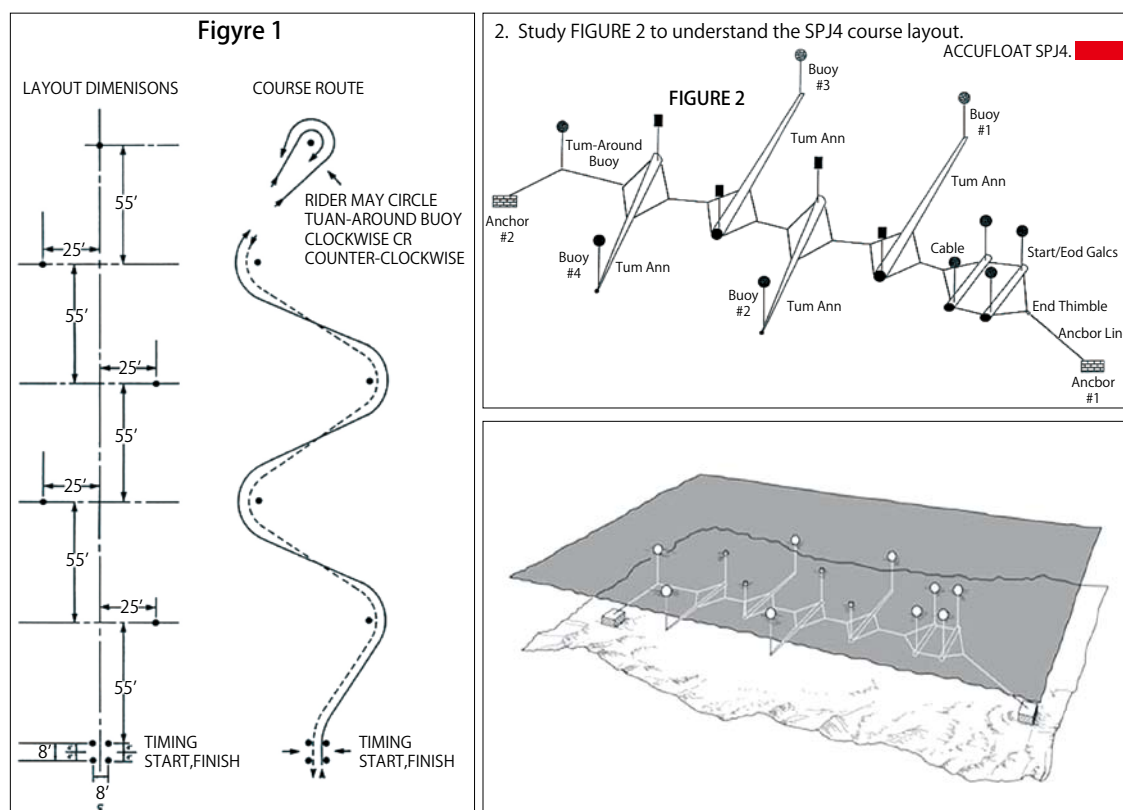


図6 国際規格スラロームコースキット "SPJ-4"

波や気象などに目をつぶれば、どこのイベントに参加しても参加者はイコールコンディションでタイムを競うことができる。この陸上競技のようなコンセプトの実現のため、当社は専用のウェブサイト(図7)を設け、各地の開催報告と共に総合順位をアップデートしている。ウェブサイトはまさにWorldwideな仮想アリーナともいえる。

この実験的な企画は、まだ参加国の数も限られており発展途上にあるが、開催国からは好意的なフィードバックが集まっている。タイムトライアルは単独で行うだけでなく、ユーザーの集うFan Dayや新製品試乗会などのプログラムと合せることで、イベントの集客効果や参加者の満足度向上が期待できる。1人ずつ出走するタイムトライアルという形態は他艇との接触などの危険性も低く、今後ともメーカー主導で進めていきたいイベントである。サイトURLを以下に示す。

http://www.waverunner-fan.com/event_infomation/s_1_worldwide/

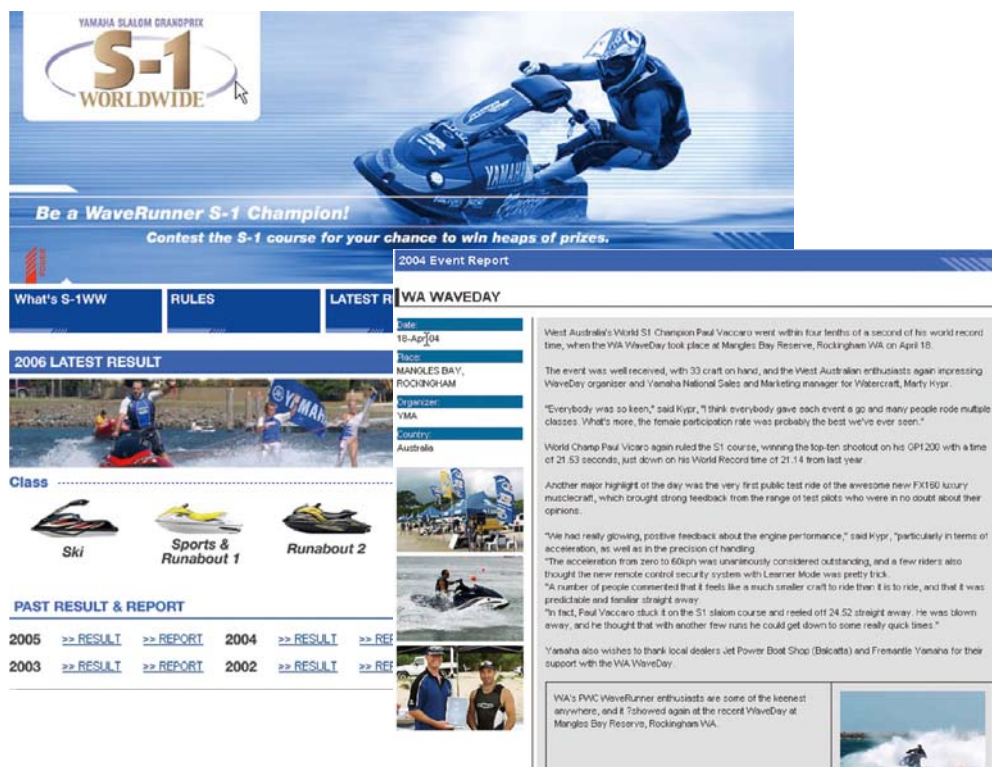


図7 S-1 Worldwideの専用ウェブサイト

6 おわりに

WVを取り巻く環境は決してやさしくはない。ルールやマナーを守らないことから起こる不幸な事故が、残念ながら毎年発生している。事故に起因する乗り場の閉鎖や規制強化もあるが、我々には常に安全の重要性を訴え、市場に密着した啓発活動にも力を注いでいる。

その中においてWVのレース・スポーツ活動が、スキル向上を目指すライダーがルールやマナーを守りながらWVの楽しみ方を披露し共有する場として機能することを期待している。健全な乗り物文化は例外なく健全なレース・スポーツ文化を内包している。業界の発展にレース・スポーツはどのように寄与するか。またそのために業界やその他団体がどのような役割を担い、どのようなロードマップを描くのか。今



後も前向きに検討を深めたいテーマである。

■著者



深町 達也
Tatsuya Fukamachi

MEカンパニー
WV推進部